

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>学校理念</p> <p>「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ学校</p> <p>育てる生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高い教養と豊かな感性を持った次代のリーダー ● 未来を切り拓くタフでアクティブな人材 	<p>教育方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「鍛える」 心力、体力、知力を鍛える 2. 「見守る」 十人十色の個性を磨き、成長を見守る 3. 「高める」 豊かな教養・国際感覚・人権感覚
--	--

2 中期的目標

<p>1. 学力を伸ばす</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織的な授業研究の推進 (2) 新たな教授方法や教材の開発 (3) 3年間の学習目標と計画の策定 「寝屋川スタンダード」 (4) 分析による焦点化と全体化 (5) 反転学習の推進 自己鍛錬力の向上 (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実 <p>2. 21世紀型能力の育成 …… タフでアクティブな実践力</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的、能動的学習の確立 「アクティブラーニングの導入」 (2) 部活動の積極的推進 「上級生の指導力の向上」 (3) コミュニケーション能力の育成 「課題発見・解決能力」 (4) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営 「自主自立」 (5) 先進的な課題研究への取り組み 「知的好奇心」 (6) 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進 (7) 文化活動、読書活動の積極的推進 (8) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨 <p>3. 学校力のパワーアップ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新しい組織の構築と横断化・全体化するためのシステムづくり (2) 質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの浸透 (3) 個々の教職員の強みを活かした組織運営 (4) 各組織の責任の明確化を図り、リーダーのマネジメント能力の向上 (5) マンパワーの結集とチームの一体化 (6) 職員研修の充実による教師力の強化 (7) ガイダンス機能の充実 (8) 学校広報と情報発信の充実 ICT環境の整備 	<p>3年後の寝屋川高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ● センター試験8割正答 30名 ● 国公立大学合格 100名 ● 部活動加入率100%、多数近畿大会出場 ● AL等考える力を育む授業 全教科で実施 ● PDCAサイクルの定着率 70% ● 授業満足度「強く肯定」 50% ● 自主学習時間 2時間以上 100% ● 生徒の安心感 60% ⇒ 70% 以上 ● 勉強と部活動の両立 57% ⇒ 66% ● 生徒の遅刻数 1000件以下 ● 学校に対する誇り 強く肯定 50% ● 保護者の満足度「強く肯定」 50% ● 教職員の学校目標共有と協働 70%
---	---

府立寝屋川高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒</p> <p>全質問 15 項目のうち 14 項目で肯定的に回答した生徒の割合が増加した。唯一減少した質問項目は「5. 学校で命の大切さや人権について学ぶことがある」で、75% (昨年度は 79%) となっている。本校が伝統的に実施している「人権体験学習」の時期が 2 月となっていることがその要因の一つになっているのだろうが、「人権教育」を考えた時に、日々の教育活動において如何に人権感覚を養い、実践する力を育むかという大きな課題に直面しているように感じる。また、SNS の普及などにみられるような社会の多様化や人間関係の複雑さなど新たな課題にも迅速にかつ的確に対応することも学校の大きな課題として次年度以降取り組んでいきたい。</p> <p>学習面においては授業アンケートの結果にも示されるように、本校の生徒は「真面目にコツコツ」という生徒が圧倒的多数を占めている。ただ「主体的に学ぶ」という点で力不足を感じる。次年度以降は「テンミニッツ」の推進と充実に取り組んでいきたい。</p> <p>●「学校生活は満足していて、入学してよかったと思っている」という質問について 過去 4 年間を見ると、「①のそう思うと②のどちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的回答が平成 24 年度は 82%、平成 25 年度は 82%、平成 26 年度は 87%であった。今年度は 92%と 5 ポイント上昇した。学年別に見ると、1 年生と 2 年生が 90%、3 年生が 94%肯定的に回答している。特に 3 年生と 1 年生の中で「①のそう思う」と強く肯定している生徒が 60%いるということが特徴的であった。エビデンスも探りながら更に「①そう思う」と回答する生徒を増やすために学校力の向上を図っていきたい。</p> <p>●「学校には悩みを相談できる人や場所がある」という質問について 平成 23 年度には「①そう思う」が 9%「②どちらかと言えばそう思う」が 30%で合わせても 39%であり、肯定的に回答した生徒が 40%を切っていた現実があった。この 3 年間、教育方針の柱の一つに「見守る」を加え、先生方へのメッセージを送り続けた。「授業は生徒との関係性の上に成り立つ」という生徒に向き合うことの大切さを学校文化として育んできた。「育成支援室」と組織を改編し教育相談コーディネーターが中心となって組織的に「教育相談」機能の必要性及び重要性を浸透させていただいたと感謝している。また、弁護士、精神科医など様々な分野の識者を学校に招き「生徒理解力」の向上をめざした研修にも取り組んだ。その結果として平成 26 年度が「①そう思う」が 24%「②どちらかと言えば」が 48%、平成 27 年度は「①そう思う」が 31%「②どちらかと言えば」が 47%となってきている。肯定的に回答している生徒が 72%⇒78%と着実に増加している。生徒・保護者にとって温かい愛情と安心感を感じる学校と評価いただいている点は信頼関係が根付いている証だとありがたいと思う。</p>	<p>第1回 平成 27 年 5 月 22 日 (金)</p> <p>今年度新たに 2 名の委員をお迎えして第 1 回をおこなった。また、今年度から教員研修の一環として新規採用 4 年目までの教員を陪席に参加させて事後レポートを提出させた。意見の概要は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員の年齢構成が 50 代後半と 30 代以下で大半を占める中、今後いかに次の世代を育てるかが生徒の学力向上や学校の活力につながる。そのために、一つは組織のリーダーである校長がイメージを明確にして経営方針を示し、全体で共有すること。もう一つは若手が自由闊達に意見を言える職場であり、グループのリーダーにどんどん若手を登用することが肝要である。 ● 寝屋川という土地柄、もっと地元とのつながりを大切にすればよいのではないかと。ボランティアや地域の祭りに参加するとか、あるいは地域の高齢者に学校の取り組みに参加していただくなど。また、コミュニティ会議に高校生が参加したり地域の雇用について学ぶ機会を持つのもよい。 ● 学力を向上させるには、生徒一人一人が自覚を持ち、自己教育力を身につけさせるべき。自主自律の精神を育むために、具体的に何をすればよいのか、どうサポートするかが大切。また、教員も生徒も学校に対する誇りをもてる学校づくりが力になっていく。
<p>保護者</p> <p>全 15 項目のうち「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的回答が 80%を超えた質問項目が 12 項目であった。(平成 26 年度は 11 項目) 最低は「14. 施設設備面での学習環境の整備」で「①が 7%」(昨年 7%)「②が 42%」(昨年 37%)と唯一否定的回答が上回った。次に低かったのが「6. 学校の学習指導によって学力が向上し満足している」という質問に対して「①が 17%」(昨年 13%)「②が 49%」(昨年 46%)であった。因みに平成 23 年度は「①が 9%」「②が 46%」であったことからは向上してはいるもののまだまだ改善の余地は大きいと思われる。また、どこに原因があるのか探る必要も感じる場所である。「11. 先生は保護者の相談に丁寧に応じている」という質問項目については「①そう思う」と強く肯定の数が 33% (昨年度 23%、H23 年度 16%) とかなりの増加である。②を合わせた肯定的回答は 90% (昨年度 86%) となり、日頃の学年主任をはじめとする担任団や部活動顧問の行き届いた対応がこのような評価につながっているのであろう。学校と家庭が信頼関係で結ばれていることは寝屋川高校の教育力の高さを示すものであり、生徒を成長へ導くうえで大きな基盤となるものである。昨年度から新設した「12. 部活動に参加することで子供は成長したと感じている」という質問項目においては昨年同様に高い評価を得ている。</p> <p>H26: 「①そう思う」50%、「②どちらかと言えば」37%</p> <p>H27: 「①そう思う」53%、「②どちらかと言えば」34%</p> <p>となっており、強く肯定する回答が「15. 入学させてよかったと満足している」と並んで他を大きく上回っている。今年は保護者の満足度という点で「強く肯定」の数が全体の 50%を超えた。平成 24 年度 36%であったものが今年ついに 56%と半数以上の方に寝屋川高校を素晴らしい学校だと言っていたということに感無量である。毎年積み上げていった改善や教職員一丸となった熱意溢れる教育の営みが評価されたものであり、寝屋川高校の質の高い日常を認めて頂いたものとありがたい受け取りたい。しかしながら、課題も見え隠れしている。「①そう思う」と強く肯定していただいた数が 20%以下の「学習指導」「健康指導」「施設設備の整備」については次年度以降何らかのテコ入れが急務である。日常の授業力の向上や「テンミニッツ」の推進など学力向上を最重要課題とし取り組んでいきたい。同時に伝統的な「寝屋川高校らしさ」も決して失わずにということも校長として心していきたい。自由闊達な校風、のびのびとした校風。この風に当たりながら育つ生徒の顔はいきいきと輝いている。確かな教養や品格も身につけながら荒々しい野性味も発揮できるバランスのとれた、人間味豊かな生徒を一人でも多く育てたいと思っている。</p> <p>教職員</p> <p>「①そう思う」「②どちらかと言えば」を合わせた肯定的回答が 80%を超えた質問項目の数が平成 26 年度は 7 項目であったのが、平成 27 年度は 11 項目と増加した。</p> <p>中でも「11. 指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」という質問に対しては「①そう思う」が 61% (昨年度 44%)「②どちらかと言えば」が 34% (昨年度 49%) と 95%という高い数字となっている。このことは授業研究の取り組みなど生徒に対する様々な指導の場面で熱意だけではなく専門家としての創意があらこちらに見受けられる学校になったということができるように思っている。特に変</p>	<p>第2回 平成 27 年 10 月 16 日 (火)</p> <p>「学力向上」をテーマに「生徒の学習」「教員の授業力」の観点から貴重なご意見を多数いただいた。概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員が授業に対して様々な工夫・研究をして、生徒の授業評価が上がっていることは非常にいいことだが、やや二極分解の傾向が数字として表れている。また、ICTを使った授業は新鮮である反面、それが学力定着に繋がっているかどうかは未知数なので、スキルに走りすぎるのではなく、きちんとした指導力を身につけることが大切である。 ● 授業アンケートの「先生は一人一人に丁寧に対応してくれる」と「先生の授業は熱意や意欲を感じる」という項目の数値が高いことは非常に良いことであり、寝屋川高校の財産でもあるが、それを次の段階、即ち個人→教科→学校全体に広げていくことがこれからの課題。 ● 海外と国内の選択制の修学旅行は、その生徒の興味や関心で選べることは良いことだが、他の海外研修などと同様、十分な配慮や援助が必要ではないか。 ● 学力向上とともに、文武両道に代表される「人間力を高める」という寝屋川の良さを忘れないようにして、今後更に良い学校になってほしい。 <p>第3回 平成 28 年 1 月 29 日 (金)</p> <p>「平成 27 年度の教育活動の検証及び地次年度への提言」をテーマに今年度最後の協議会を開催した。授業向上の取り組みを振り返る意味で実際に授業を見学していただいた。その後今年度の学校教育自己診断結果と分析などをもとに今年度を振り返り、次年度への提言をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の授業評価が上がっていることは非常にいいことだが、どんな内容や工夫にやる気を興し評価が高いのかを深堀することが大切。また、ICTを使った授業は単に使うだけの授業からステップアップして「うまく使う」という段階にあることが実際に見せていただいてよくわかった。 ● 生徒も保護者も高い満足度が出ているが、なるほど近くで寝屋川高校を見れば見るほど行きたいなと思う学校になってきたと感じる。今後は地域との交流や地域への貢献も積極的に取り組んでほしい。そのことが今以上の広報活動になるだろうし、寝屋川高校の素晴らしさを発信することになる。 ● 改善は押し付けるものではない。モチベーションを下げるだけ。教員の自主的な志向が迫力ある行動となり、それが学校の勢いになり、保護者には安心感を与えるもの。2 年生から 3 年生への成長がすごい。特に入学して強くよかったと思っている生徒が 60%を超えるのは大きな特徴ではないか。また保護者も同様に強く信頼し満足しているという高い数字は先生方の熱心さや愛情あふれた生徒との向き合う日常のたまもの。

府立寝屋川高等学校

化が大きかったのは「2. 学校にはPDCAサイクルに沿った改善志向が浸透している」という質問に対して「①そう思う」が19%（昨年度13%）「②どちらかと言えば」が60%（昨年度52%）と肯定的な回答が79%と上昇した。次年度以降「強く肯定」が3割ぐらいになれば日々の教育活動がさらに活発になることが期待される。反面、「人権教育体制」「各教科での十分議論」「生徒と向き合う時間の確保」において「①そう思う」と強い肯定が20%以下であった。次年度以降課題を明確化、全体化し改善策を講じていきたい。「生徒と向き合う時間が確保できない」中で、生徒や保護者からは「相談や信頼」について高い評価を得ていることは大いに評価されるべきことである。一人一人がプロとして質の高いパフォーマンスを発揮していることが寝屋川高校の高い教育力を維持し存在感を保つ大きな要因である。今年度は「PDCAサイクルの浸透」「組織的な協働」を重点に置いたが、大職員室の効果、組織の長のリーダーシップなど学校目標の明確化・全体化が進み改善志向が徐々に定着してきたように感じている。

- 学力向上も大切なことだが、本当の値打ちは数字に表れないところにあるように思う。やさしい気持ちであったりいきいきとした表情であったり「人間力を高める」という寝屋川の良さを検証できるものも研究していただきたい。
- 外から大胆に持ってくるものと内側からじっくりと新しいものを作り出していくことをバランス良く進められている。何より子どもたちが不利益をこうむらないような配慮が行き届いているように感じる。今後も大いにチャレンジしていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力を伸ばす	(1) 教科で意思統一された教育計画 (2) GPの共有（新） (3) 自主的自律的授業見学（新） (4) 授業研究会の充実 (5) 授業振り返りシートの活用 (6) 先進事例学校訪問 (7) 3年間の進路指導計画の見直し (8) 家庭学習時間を増加させるための仕掛けづくり (9) ICTを活用した学習環境の整備 (10) 学習と部活動の両立	(1) 教科主任とのヒアリング、統一用紙 (2) 前年度授業振り返りシートから5つの部門ごとのGP公開授業 (3) 全員年間4回、報告書提出 (4) 授業公開、授業研究会、外部講師による授業見学会など (5) GPの共有や職員研修 (6) 特色ある4校（未定）への訪問 (7) 進路マップの作成（新） (8) ・反転学習の推進 ・TEM計画作り (9) 普通教室へのプロジェクター設置 (10) 夏季休業中の部活＋講習	(1) 4月に実施 (2) 前期に2回、後期に1回 (3) 提出率80% (4) 年間6回実施 (5) 職員研修2回以上実施 (6) 4校へ20人派遣 (7) 進路マップを作成活用 (8) ・反転学習導入率30% ・TEM Minitsの実施 (10) 生徒アンケート「強く肯定」が18%（26年度）⇒30%	(1) 4月早々にヒアリングを実施 ○ (2) 月に1回は職員会議や室会議で共有 ◎ (3) 自主的な相互見学が散見した ○ (4) 授業研究会 ◎ ・公開研究会 4回 ・校内研究会 2回 ・大学との連携 2回 (5) 職員会議でのプレゼン（情報共有）◎ （教師の学び舎・クラッシー他） (6) 先進事例の学校訪問 ◎ 6校（11名）東京学芸大学附属 他 (7) スクールダイアリーに変更 ◎ (8) テンミニッツの実施 ◎ 反転学習25%△ 放課後ほぼ毎日実施 (9) ICT環境 プロジェクタ設置 10台 (10) 1年勉強会 ○ ・80人（1泊2日）から400人（学校3日間） 両立できた「強く肯定」28%

府立寝屋川高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">21世紀型能力の育成</p>	<p>(1) 生活規律の徹底</p> <p>(2) 部活動のさらなる充実</p> <p>(3) 学園祭、コーラス大会の伝統継承と発展</p> <p>(4) 授業の工夫と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの進化 ・双方向の授業 ・考える力の育成 <p>(5) コンテストやコンクールへの参加奨励</p> <p>(6) 社会貢献活動の推進</p> <p>(7) 国際交流活動の推進</p> <p>(8) 人権学習の新たなスタイルの構築</p> <p>(9) 健康と安全への意識の高揚</p> <p>(10) 新しい研修型修学旅行の実施 学校の特色の一環 「ベトナムと東北」</p>	<p>(1) ・月間遅刻欠席数のアナウンス ・個別指導の徹底</p> <p>(2) 部活動説明会の工夫</p> <p>(3) 学園祭の準備期間の工夫</p> <p>(4) ・授業GP学習会の実施 ・授業振り返りシートの提出 ・結果の共有</p> <p>(5) ・授業から出展 ・部活動</p> <p>(6) ・寝屋川市と合同ブランド戦略</p> <p>(7) ・生徒会主催「誇り」イベント</p> <p>(8) ・インターネットを活用した調べ学習～発表会の実施 「人権」「健康」</p> <p>(9) 人権・防災など幅広い教養を身につけるための講演会の実施</p> <p>(10) 特色ある海外研修修学旅行の計画</p>	<p style="text-align: center;">※ () 内は H26 年度</p> <p>(1) 遅刻総数 目標 1000</p> <p>(2) ・入部率 100%をめざす(91%) 同時に退部率の減少 ・近畿大会出場</p> <p>(3) 生徒満足度「強く」50%(38%)</p> <p>(4) 学習会年間4回</p> <p>(5) 出展数と入賞者数 ・全校生徒の1割</p> <p>(6) 地域清掃参加 地域演奏会実施 ・体験 全校生徒5割</p> <p>(7) キャンペーンの実施 正門看板の刷新</p> <p>(8) (9) 学校教育自己診断結果 強く肯定 30%以上 (18%)</p> <p>(10) 新たな試みに対する入念な下見の実施</p>	<p>(1) 遅刻総数 920 (1月末現在) ◎</p> <p>(2) 部活動加入率 95% ○ ・近畿大会以上 (陸上・ソフトテニス・ラグビー 卓球・クラシックギター)</p> <p>(3) 学園祭 ◎ ・生徒の満足度「強く肯定」53% 肯定 93%</p> <p>(4) 授業の工夫と改善 学習会を5回実施 ・振り返りシートの提出 100% ・考える力の育成 92% ・双方向授業 90% ・アクティブラーニング 71% 88%の教員が改善に努めたと回答 ◎</p> <p>(5) 出展数と入賞者数 ◎ ・税の作文4名入賞 ・献血ポスター1名優秀賞 6名入賞 ・読書感想文2名 ・大阪国際大学主催スピーチコンテスト 最終選考1名</p> <p>(6) 地域との連携 ○ ・清掃活動・地域演奏会(8回) 延べ450人(40%) ・社会福祉施設訪問 ・地域イベント 青年祭 など ・寝屋川市ボランティア活動</p> <p>(7) 国際交流コーディネーターを中心に生徒会とコラボした 組織的な活動、正門看板生徒の書に刷新 ◎</p> <p>(8) 人権体験学習の実施 自己診断結果 32% ○</p> <p>(9) タイムリーに健康ニュースを発行できた (年間20号) ○</p> <p>(10) 2方面への修学旅行の計画と準備を始めた (ベトナム・東北地方) ○</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校力のパワーアップ</p>	<p>(1) 学校目標の共有と協働</p> <p>(2) 組織的な教育活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共助と共同によるチーム一体化 ・報連相の徹底 <p>(3) 教育相談機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援カードの活用 ・ネットワークづくり <p>(4) PDCAサイクルの浸透による改善志向の定着</p> <p>(5) 職員としてのやりがいや自分の存在価値が確認できる職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任される役割と責任 <p>(6) 学校外との連携強化</p> <p>(7) 計画的な教職員研修</p> <p>(8) 学校広報活動の充実</p> <p>(9) ICT環境の充実</p>	<p>(1) 会議の設定時期・回数・内容の見直し</p> <p>(2) 各組織内役割と責任の明確化 ・議論と意思疎通</p> <p>(3) 月1回の定例と必要に応じて随時 コーディネーターが招集</p> <p>(4) 組織目標と個人目標 ・チャレンジシートと振り返り シートの活用 ・レクや面談の実施</p> <p>(5) 室長、主任、コーディネーターの リーダーシップを発揮できる環境づくり、 安全衛生委員会の活性化</p> <p>(6) 大教大、国際大、寝屋川市と協働した 取組 教師志望人材の育成</p> <p>(7) 人権教育、安全教育、教育相談、 部活動指導、授業づくり</p> <p>(8) ホームページの充実および広報 チラシの充実</p> <p>(9) プロジェクター常設教室の増設</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果 ・「目標の共有と協働」 強く肯定 30%以上(24)</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果 ・「組織的な教育活動」 強く肯定 40%以上(31)</p> <p>(3) 学校教育自己診断結果 ・「教育相談機能」 強く肯定 30%以上(21)</p> <p>(4) 学校教育自己診断結果 ・「PDCA浸透」 強く肯定 30%以上(13)</p> <p>(5) 職員アンケート(新規)を作成し 検証</p> <p>(7) 年間5回実施</p> <p>(8) ・HP更新頻度 概ね週に1回 ・カラーで見やすい、インパクト のあるチラシ作製</p>	<p>■教職員自己診断結果</p> <p>(1) 目標の共有と協働 (79%→85%) ◎</p> <p>(2) 組織的な教育活動 強く肯定 (24%→40%) ◎</p> <p>(3) 教育相談 (78%→82%) 強く肯定 (21%→29%) ◎</p> <p>(4) PDCAサイクルの浸透 強く肯定 (13%→29%) ◎</p> <p>(5) 安全衛生委員会による 「ストレスチェック」を実施 ○</p> <p>(6) 学校外との連携強化 ◎ ・大阪教育大学コンソーシアム 幹事校 生徒参加(作文コンクール) 教師参加20名(学び舎)</p> <p>(7) 職員研修 年間5回実施 ◎ ・部活動指導 ・発達障がい ・リスクマネジメント ・授業研究 ・大教大及び舎伝達講習</p> <p>(8) 情報発信力 (94%→91%) ○ ・ホームページの更新 概ね週1ペース ・広報チラシのリニューアル</p> <p>(9) プロジェクター10台購入 ○ 活用度 40%→51%</p>